

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1493600074
法人名	株式会社 いっしん
事業所名	グループホーム いっしん館いずみ
訪問調査日	平成20年2月25日
評価確定日	平成20年4月8日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 20年 3月 2日

【評価実施概要】

事業所番号	第1493600074号
法人名	株式会社 いっしん
事業所名	グループホームいっしん館いずみ
所在地	神奈川県横浜市泉区和泉町1953-2 (電話) 045-806-1218

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成20年2月25日	評価確定日	平成20年4月8日

【情報提供票より】(平成 20年 2月 20日事務所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 4月 1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人	
職員数	17人	常勤 11人	非常勤 6人	常勤換算 14.0人

(2) 建物概要

建物構造	(木造)造り
	2 階建ての (1)階 ~ (2)階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	53,000 円	その他の経費(月額)	35,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 200,000 円	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,234 円			

(4) 利用者の概要 (2月20日 現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	8 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 78 歳	最低	54 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	湘南クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人としては14番目のグループホームで、神奈川県では2番目のホームです。他館のノウハウがハード面やソフト面でも生かされ、開所1年ですが着実に運営されています。ハード面の特徴は、全館が明るく広い作りとなっています。食堂、談話コーナーや和室は、利用者も職員も明るく闊達に生活を送るに申し分のないスペースが確保され、玄関なども鍵を掛けない自由な空間を作っています。またソフト面での特徴は、「いっしんの想い」を背景にした理念に基づき、利用者いかに「楽しく過ごして頂く」かに取組んでいることにあります。日頃の外出先なども、利用者の希望を取り入れ支援しています。昨年は家族も参加の一泊旅行で千葉県の温泉に出掛けています。また、重度化や終末期に向けた取り組みも、法人として方針を明確にし、利用契約時に説明して同意書を取り交わしています。地域との交流は順調に進んでいますが、まだ充分とは言えない状況です。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての外部評価のため、前回の評価に対する取り組みはありません。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員には改善指向が強く、自己評価も客観的な見方で評価しています。特に、評価項目のサービスの成果に関する項目では、日頃の取り組みに対して自己満足に陥ることなく厳しく評価しています。「いっしんの想い」にある「出来ない理由でなく、出来る仕組みを考える」のチャレンジ精神で改善に取組もうとしています。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	開所1年目で、運営推進会議の開催回数が2回で、本格的な討議に入っていません。現状は、会議メンバーにグループホームについて理解を深めて貰うことに力を注いでいます。今後の運営推進会議では、サービスや取り組みを理解して貰い、それらへのアドバイスや協力を求めることを考えています。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	ご意見箱の設置などで利用者や家族の意見や苦情などに、積極的に耳を傾け対応しようとしています。今後は意見や苦情などを、利用者や家族との対話の中からも汲み取り、ホームの運営に反映されることが望まれます。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日常生活では、利用者との外出やゴミ出しの時、近隣の人達と挨拶を交わしたり、談笑する関係ができており、近所の子供たちとも利用者を交えたコミュニケーションが成り立つよう取組んでいます。また地域の祭りに参加したり、ホームの祭りに参加してもらったりと行事にも積極的に参加しています。ボランティアの受け入れも積極的で、高校生によるネイルアートなどは女性の利用者には好評だったそうです。災害時における地域との連携にも取組むことが望まれます。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	社長が提唱する7つの基本理念と決め事十則をベースに、「いっしん館の常識は施設の非常識」と考えて、利用者にホームでごく普通の家庭の当たり前の生活を送って貰えることを狙いとした独自の理念をつくりあげている。		社長の提唱する理念との整合性を図りつつ、いずみ館独自の地域密着型サービスとしての理念を、職員全員で検討されることを期待します。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員には、採用時に理念についての教育を行っている。日常的には職員事務所に理念と十則を掲示したり、ミーティングでの話し合いを通して共有化を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの雰囲気は明るく、開放的である。地域の夏祭りに参加したり、ホームの夏祭りに招いたりと交流を促進している。又高校生のボランティアによるネイルアートなども利用者には好評で、今後も積極的に地域との交流を図ろうとしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めてであるが、自己評価の意義を理解され、自己評価に対する今後の改善取り組みも積極的に掲げている。また職員からは、今回の外部評価に対して、問題があればどんどん指摘して欲しいとの要請があった。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の開催はまだ2回で、会議のメンバーの中に「グループホームとは？」とか「認知症とは？」と言う質問があり、その説明をかねてホームいずみ館についても話をし、理解を求めている。		サービス向上の建設的な意見を求めたり、地域の協力を要請するにも、状況を良く理解して貰うことが一番の早道と思われます。会議が下和泉地域ケアプラザで開催されています。2~3回に1回程度は、いずみ館で開催するよう区役所に交渉することが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区役所生活保護課の担当ワーカー等とも話し合う機会が多くもたれている。また、泉区主催のグループホーム連絡会にも参加し、サービス向上などについて話し合っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	広報紙的な「お便り」を発行しホームでの生活の様子を家族等に報告しているが、発行できない月もあるのが現状である。お便りで報告できない個人別の用件は、家族の来館時に報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「ご意見箱」と記入用紙が備えられ、家族の来訪時に記入願う仕組みが作られている。しかし投函実績がなく、まだ運営に反映された事例はない。		家族等の来館時や運営推進会議の時などに、職員全員がアンテナとなり意見などの収集に努め、運営に反映されることを期待します。家族とは、一方通行の報告に終わらず、投げかけたり受け止めたりのキャッチボールを心掛けることが望まれます。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には担当フロア(1・2F)を固定にし、関連事業所間の異動も最低限に抑え、馴染みの関係を維持するように努めている。また正社員としての採用を主としており、離職率を抑えることにつなげている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部が計画する社内研修を柱に、介護実践者研修や管理者研修が行われている。また県や市町村主催の研修会にも参加するようにしているが、研修参加記録や今後の計画書が作られていない。		職員の教育計画を作り、職員別の受講を記録するなどして、効果的な教育活動が実施できるようなシステムの構築を望みます。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	泉区のグループホーム連絡会に参加して、管理者レベルで情報交換などを通じた交流が図られている。職員レベルの交流は、まだ検討されていないが、職員には相互訪問や交換研修などを希望する声があった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>見学には何度でも来てもらい、雰囲気を知ってもらうようにしている。見学の際には、特に利用者の生活のリズムを見てもらっている。法人内の他館では体験入居やショートステイなどによる馴染みへの対応を実施している。いずみ館も3年間の実績ができた時点で、同様の対応の実施を検討している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>生活の中に常に笑いがある雰囲気づくりに心がけている。また利用者職員は、お互いに対等な人として触れ合っており、庭での野菜作りでは、農業経験のある利用者から職員が指導を受けるなど、お互いに力を出し合い、教えあう環境が作られている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者職員との意思の疎通が良く、日々のかかわりの中で、細かな声かけにより、暮らし方への希望や意向について話し合い、その把握に努めている。また話しづらい内容の場合には居室や相談室で話し合うなどの気遣いをしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族との話し合いで把握した希望や意向と、協力医の定期往診時の意見や居宅療養管理指導書などを参考に、月2回の職員ミーティングで課題やケアについて検討し、センター方式を活用してケアプランを作っている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期見直し以前に、見直しの必要な変化が生じた場合には、サービス担当者会議を開催し、修正または立て直しを行っている。急激な体調の変化があった場合には、協力医の指示を仰ぐとともに家族とも連絡をとり対応するようにしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望により競馬場や理美容院および飲食店への同行を行っている。また法人が高齢者住宅や有料老人ホーム、グループホームを運営している為、状況に応じ色々な形で支える体制が取れている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医である湘南クリニックの医師が月2回往診をしている。こちらの医師とは24時間連携が取れる体制をとっている。その他月1回の歯科医による往診が行われている。眼科医へは職員が付き添い受診を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用契約時点で重度化や終末期に向けた対応について説明し、利用者及び家族等に同意書を貰っている。また重度化や看取りが必要な状況に到った場合には、その時点で改めて利用者・家族・協力医と話し合い方向を決めていく事になっている。		看取りに向けたマニュアル作りおよび医師・看護婦との連携の構築を進めていく事が望まれます。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者には先輩として敬意を持ち、言葉使いや会話の内容に注意を払って接している。しかし片苦しくならないう家族のように親しみを込めて話すことが多い。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の気分や身体状況に合わせて、利用者の希望を聞き支援をしている。晴れた日は散歩・ドライブ等、天気の悪い日はボールやボーリング、習字などを出して「今日はどれをやります?」と希望を聞くようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に献立を考えたり、外食や出前を取ったりしている。またきざみ食の方には見た目を考え、刻んだものを形にする(魚の型に入れる)などの工夫をしている。利用者とは一緒に食事をし、準備や片付けも一緒に行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お風呂は毎日入る事が出来る。時間も利用者の希望に合わせて1対1の援助で行っている。また、入浴剤などを使用し温泉気分を楽しめるような工夫もしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干しや掃除、食事の片付け、食材の買い物などで利用者が率先して行っている。時には気晴らしに、外食をしたり居酒屋へ飲みに行ったりする事もある。また楽しみには施設の周りの花壇での園芸や野菜作りや、去年は千葉の温泉に行ってきた一泊旅行などがある。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の利用者の状況により散歩や買い物、ドライブなどを行っている。買い物は近くの店舗や100円ショップ、車で駅近くの店舗まで行く事もある。また地区センターへ行ってコーヒーを飲んで楽しんでくる事もある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は玄関等に鍵を掛けないケアを実践している。18時になると防犯の為施錠をしている。各ユニットの出入口は自由に出入りする事が出来る。各入口にはセンサーがあり利用者の出入りを職員が確認出来る仕組みになっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急・災害時の連絡網を作成し、事務所・台所等目の付く所に掲示している。備蓄の確保や避難経路も充実している。		年に2回の避難訓練を利用者・近隣の住民の協力の下に行っていく事が望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月2回の定期往診の際に医師・栄養士に献立表を見てもらいアドバイスを受けている。また体調不良時や食事が進まない場合は高蛋白ゼリーを常備し使用している。		水分摂取量のチェックはされていますが、食事摂取量のチェックも合わせて行う事が望まれます。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は日差しも良く入り明るく、利用者の作品・写真が飾られている。食卓テーブルの他に小テーブルやソファが置かれ、また畳のスペースにはこたつや椅子があり、利用者がくつろいでいる。トイレは一般用・広い介護用の2種類設置され、洗面台も利用者に合わせて高さが調節出来るようになっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入口には利用者・家族の了解の下、名前と本人の写真が貼ってあり、中には利用者が使用していたタンスやテレビが配置され、ぬいぐるみ・写真が飾られている。また仏壇を持ち込み職員と一緒に水をあげている方もいる。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームいっしん館いずみ
(ユニット名)	1階
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市泉区和泉町1953-2
記入者名 (管理者)	長岡康弘
記入日	平成 20年 2月 20日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	7つの基本理念と決め事十則を念頭におき、私たちは入居者がその人らしく暮らし続けることを支えています。	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	男性のみのミーティング(一心会、月1回)やいっしん運営推進会議を通して理念を共有し、理念を念頭に置きながら業務にあたるように日々取り組んでいます。	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	家族の方には契約時や来館時に「いっしんの想い」という書類を渡したり話したりして、地域の人々には泉区運営推進会議のときに基本理念の書類を渡し、取り組み方を話しました。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	知らない人でも近くですれ違ったときは挨拶をし、ゴミを出すときに会ったら気軽に話したりします。また、泉区運営推進会議等で内覧会をすることを呼びかけ、気軽に立ち寄れるような雰囲気づくりを心がけています。	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域の夏祭りや、いっしん館いずみの夏祭り、高校生のネイルアート、近隣の方のハンドリフレクソロジーなど、地域のボランティアの方々や紹介を通して地元の人々との交流を図っています。	まだいずみ館がオープンして1年も経っておらず、地域の人々との交流や地域活動への参加はまだまだこれからだと思っています。もっといっしん館を知っていただくとともに、積極的に地域行事に参加したいと思っています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	泉区運営推進会議を通して地域の人から地域の高齢者について相談があり、認知症の方と暮らしている方へのアドバイス・提案を講習会として時間を設け暮らしに役立てていただけたらと思っています。(3月実施予定)		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めてなので、評価を活かしての具体的な改善等はありません。		今回の自己評価・外部評価を通して今までを振り返り、改善点がありますので、これから取り組んでいきたいと思ます。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では地域住民の方からグループホームとはどういうところかわからないという声や、認知症と言われても何だかわからないという意見があり、それについて説明したり、内覧会をしていずみ館のことや、認知症について話しました。		まだいっしん館の紹介や認知症について話ただけで、サービスや取り組みについてまで反映できていません。今後の会議でサービくや取り組みを理解していただき、それについて意見等をいただきたいと思っています。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	泉区主催のグループホーム連絡会に参加して、近隣のグループホームの責任者の方々と話し合いを行い、泉区内のグループホームのサービスの質の向上に取り組んでいます。		他の行事と重なることが多く、なかなか参加できていないのが現状です。時間をつくり積極的に参加していきたいと思ます。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	介護実践者研修・管理者研修などに参加し知識を得ました。現段階ではいずみ館においては後見人制度が必要な方はいらっしゃいませんが、いつでも話し合えるよう家族の方ともコミュニケーションをとっています。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が加害者、利用者が加害者または被害者になることがないように細心の注意をはらい、防止に努めています。職員は先を見据えて行動し、利用者同士がトラブルにならないよう注意しています。		高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会がまだないので、研修や講習会等に参加し、視野を広げたいと考えています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時・解約時には必ず利用者や家族等に疑問があるかないかを尋ね、理解し納得していただけるまで説明するようにしています。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が職員や会社に対して発言できる場を設けていません。</p>	<p>利用者が職員・会社に対して発言できる場を設け、利用者の声を聞き運営に反映させていきたいです。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会に来ていただける家族の方が多いので、その都度必ず報告しています。</p>	<p>「お便り」を発行できてない月がほとんどなので、遅れないように毎月発行できるようにしたいです。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>「ご意見箱」の設置をし、不満や苦情がある場合には「苦情報告書」に必ず記入し、運営に反映させています。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>いっしょに運営推進会議を通して、職員の不満・意見等を話し合う機会を設け、より満足して働けるようにしています。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者や家族の状況の変化、緊急時など職員が必要な場合、残業や休日出勤として人員を確保し、柔軟に対応できるようにしています。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	養成講座や社内研修、また介護実践者研修や管理者研修など、内外を問わず職員のレベルアップする場を設けています。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	泉区運営推進会議やグループホーム連絡会に参加し、同業者と交流を深め、ネットワークを構築し、相互にサービスの質の向上を目指しています。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	毎月1回(20日)をリフレッシュの日とし、日々のストレスを解消する場を設けています。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は各館が行うミーティングに参加し、職員の個々の努力等を把握し、全スタッフが向上心を持って働けるよう運営者の思いを伝えています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接の時点で不安なこと、ずっと続けていきたいこと、今までの生活スタイル、心身状態などをよく聴き、利用者の気持ちをよく理解するよう努めています。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接時に利用者を交えて要望をじっくり聴き、どうしてほしいのかをしっかりと聴くよう努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時に本人・家族から要望を伺い、グループホームなのか、有料老人ホームなのかを考慮し、支援しています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	何度見学に来られてもいいので、場の雰囲気を知っていただくようにしています。見学に来られた際は、他入居者がどのようなリズムで生活しているかなどを伝えるようにしています。		茨城にある他館で、体験入居(入居希望者のみ)やショートステイが利用可能となっているので、3年という期日を過ぎたら体験入居等できるように検討したいです。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と常に笑いある雰囲気作りを心がけていますが、たまにケンカもします。また利用者は毎日体調や心情が違うので、学ぶことが多いです。お互い人として接しているので、支えあって生活しているといえます。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族に対しては利用者のために出来ることは、何でもしていただくようにしています。家族と一緒に相談・話し合いをしながら利用者を支えていくように心がけています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者と家族の意見を尊重しつつ、両者がいつまでもいい関係が保てるように、常に「報・連・相」は忘れないようにしています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が馴染みの人と連絡がとりたい場合はできるだけすぐに連絡をとるようにし、場所に関しては、そこまでの距離・金銭面・人員を考慮しながら支援しています。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	各利用者がどういった関わり合いがいいのかを過去の生活スタイルや性格などから考慮し、コミュニケーションやレクリエーション、日々の集団生活から支えあっていけるように支援しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている			
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている			
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「気づきメモ」として気づいたことを書き込む用紙を作り、スタッフ全員で共有しながら、その利用者が楽しく過ごせるように支援しています。		気づいていても「気づきメモ」に残さず、個人記録に残したり、口頭で申し送って終わってしまうため、見直しができないことがあります。これからはメモを忘れずに取り組んでいきたいです。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人が競馬場に行きたければ行くし、マクドナルドに行きたければ一緒に行きます。少人数なので、軽いフットワークを活かし、本人・家族の要望を柔軟に対応するようにしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域住民の方がボランティアに来ていただいたり、高校生がネイルアートに来てくれたり、利用者が好きなことや笑顔になれるようなことを支援しています。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	泉区運営推進会議で地域ケアマネジャーやグループホーム関係者といろいろな問題点について話し合ったりしていますが、他のサービスを利用するための話し合いや支援は行っていません。		利用者から訴えがあるようならネットワークを活用して本人に喜んでいただけるよう支援していきたいです。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは運営推進会議やレクリエーションで使わせていただいておりますが、ケアマネジメント等については協働できていません。		利用者の訴えがあるようならケアプランに反映して、長期的に支援しその際に地域包括支援センターが必要なら協働していきたいです。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診に来ていただいている主治医があり、24時間連携をとれる体制をとっています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	茨城に精神科で認知症に詳しい医者があり、気軽に相談できますが、いずみ館まで診察や治療をしに往診しません。		主治医に専門医を紹介していただき、診察や治療を受けられるようにします。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	非常勤ではありますが、週1回看護職員が出勤するので気軽に相談し、利用者の健康を管理しています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	スタッフは時間があるときに面会に行き、そのときに必ず看護師や担当医に様子を伺い、情報収集や相談をしています。退院前には必ず担当医とムンテラを行い、現状の把握に努めています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に看取りについて聞くようにしており、重度化した場合は本人や家族等、主治医と話し合いを行い方針を決めています。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	まだ重度な利用者はありませんが、状態に変化がみられた場合はすぐ主治医に連絡して指示を仰ぐようにしています。家族とも相談し、検討しています。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	診療情報提供書等の資料だけではなく、伝えたほうがよいことや聞いておきたいことは情報交換を行い、本人が安心・快適に過ごせるように支援しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>人生の先輩として敬意を持ち、言葉遣い・会話の内容に気をつけ、傾聴を心がけています。家族のように親しみを込めて話すことが多いです。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>明るい雰囲気作りに努め、日常の声かけから本人の思いや希望を傾聴し、自己決定を支援しています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一日の流れとして基本的な時間は設定していますが、その日の気分や身体状況に合わせて本人の希望を大切にしています。(食事・入浴・散歩・レクリエーション等)</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>いっしょ館内に理容者があり、希望時に来館して理容しています。本人が美容院でと望む場合は家族等と費用について相談してから行くようにしています。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>好き嫌いを把握し、メニューに取り入れったり調理方法や彩、味付けを工夫しています。一緒に食事をし、準備や片付けも行っています。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>利用者の身体状況を考慮し支援しています。飲酒に関してはお誕生日会や行事のときにして楽しんでいただいています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者の排泄パターンを把握してさりげなく支援し、清潔を保っています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日声かけをし好きなときに入浴していただいています。入浴剤なども使用して楽しめるように工夫しています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の状況に合わせて寝具の清潔を保ち、お昼寝や安眠に努めています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯干しや食事の片付け、食材の買い物、遊び等、好きなことを一緒にやっています。		小さな花壇があるので、園芸や野菜作りをやってみたいと思います。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる利用者には本人に所持していただき、買い物にも同行していただいています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の気分に応じて散歩やお買い物に出かけています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年に1度、一泊旅行を実施しており、個別に家族との外出や外泊を支援しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している利用者や館よりいつでも家族や知人に気兼ねなく電話できるように配慮しています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	元気に明るくお迎えをし状況に合わせて一緒に食事をしていただき、居室やホールで自由に過ごしていただいています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はせず、本人の意思決定を尊重し、身体拘束のない生活づくりを支援しています。		介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為はすべての職員が理解しているわけではないので、全員が理解できるよう周知したいです。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各居室やユニット出入り口は施錠していません。玄関は夕方18時を過ぎたら防犯のために施錠します。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の所在や様子をさりげなく把握し、見守りを大切にしています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態に合わせて任せています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各利用者の身体状況、行動パターンを把握し事故防止に取り組んでいます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	怪我、体調不良、誤嚥等の応急手当、対処法を学び、緊急搬送も経験しており、これからも徹底していきます。		新しく入るスタッフにも指導し、全職員が対応できるようにします。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	泉区運営推進会議に参加し、話し合って地域の方々と理解・協力を得られるようにしています。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族とリスクや希望について話し合いをし、プライバシーや尊厳を大切に生活していただけるよう話し合っています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の見守りの中から利用者の体調や様子を把握し変化や異変の発見に努めています。気付いた際には速やかな対応を心がけています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指導処方に基づき処方薬を理解し、確実な服薬、利用者の体調の変化に注意しています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表、水分摂取量表を活用し、食事の工夫や便秘薬の調節、散歩などで排便コントロールをしています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを実施し、清潔を保ち、週1回義歯の洗浄と消毒を行っています。		毎食後の口腔ケアとうがいの徹底をします。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月2回の定期往診の際、医師や栄養士より食事面・水分摂取量などの指示を受け実施しています。		体調不良時、食事がすすまない低栄養状態の利用者には高たんぱくゼリーを常備し摂取していただいています。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	月2回の定期往診の際、主治医よりその都度予防や対応策の指導を頂き、職員に伝達しています。社内研修、実践者研修など外部研修を活用し職員に資料として伝達しています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	消費期限を厳守し、使用に間があく食材に関しては冷凍保管で対応しています。野菜は新聞紙などで包み保護し定期的に冷蔵庫内を清掃しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	利用者と一緒にゴミ捨てや散歩の際には地域住民の方とコミュニケーションをとり、気軽に来館していただけるよう声かけを実施しています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は定期清掃を実施し清潔にしています。ホールは季節感を出せるよう飾りなどを取り付けたたり、利用者の写真スペースを設けています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール奥にはたたみ部屋を設置し、ゆっくり過ごして頂けるようコタツ、テレビ、書物などを置いています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	基本的にすべての利用者が以前から使用されている家具や 備品で意向に合わせて快適な生活をしていただけるようにし ています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	利用者の体調や状態、意向に合わせてこまめに調整してい ます。また、日中定期的に換気を実施しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	壁側には手摺りがつけられ、ホール内はテーブルと椅子とい たってシンプルな環境となっており、歩行される際の障害を なくす配慮をしています。また、広々とした空間も大切にしてい ます。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	利用者のその人らしさを大切に出来ることはやっていただ き、望まれる介助、支援をコミュニケーションや声かけにより 汲み取り支援しています。		トイレ扉に大きくトイレと色画用紙で書いて貼り付け、遠くか らでもわかるようにしています。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	施設の外回りは花壇があり、利用者とともに花や野菜を栽培 しています。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・利用者の趣味や意向に合わせた個別レク（競馬観戦、パチンコ、名所訪問など）などをおこなっています。また、年に一回、一泊旅行を実施しています

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームいっしん館いずみ
(ユニット名)	2階
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市泉区和泉町1953-2
記入者名 (管理者)	長岡康弘
記入日	平成 20年 2月 20日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	7つの基本理念と決め事十則を念頭におき、私たちは入居者がその人らしく暮らし続けることを支えています。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	男性のみのミーティング(一心会、月1回)やいっしん運営推進会議を通して理念を共有し、理念を念頭に置きながら業務にあたるように日々取り組んでいます。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族の方には契約時や来館時に「いっしんの想い」という書類を渡したり話したりして、地域の人々には泉区運営推進会議のときに基本理念の書類を渡し、取り組み方を話しました。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	知らない人でも近くですれ違ったときは挨拶をし、ゴミを出すときに会ったら気軽に話したりします。また、泉区運営推進会議等で内覧会をすることを呼びかけ、気軽に立ち寄れるような雰囲気づくりを心がけています。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭りや、いっしん館いずみの夏祭り、高校生のネイルアート、近隣の方のハンドリフレクソロジーなど、地域のボランティアの方々や紹介を通して地元の人々との交流を図っています。		まだいずみ館がオープンして1年も経っておらず、地域の人々との交流や地域活動への参加はまだまだこれからだと思っています。もっといっしん館を知っていただくとともに、積極的に地域行事に参加したいと思っています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	泉区運営推進会議を通して地域の人から地域の高齢者について相談があり、認知症の方と暮らしている方へのアドバイス・提案を講習会として時間を設け暮らしに役立てていただけたらと思っています。(3月実施予定)		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めてなので、評価を活かしての具体的な改善等はありません。		今回の自己評価・外部評価を通して今までを振り返り、改善点がありますので、これから取り組んでいきたいと思えます。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では地域住民の方からグループホームとはどういうところかわからないという声や、認知症と言われても何だかわからないという意見があり、それについて説明したり、内覧会をしていずみ館のことや、認知症について話しました。		まだいっしん館の紹介や認知症について話ただけで、サービスや取り組みについてまで反映できていません。今後の会議でサービクや取り組みを理解していただき、それについて意見等をいただきたいと思っています。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	泉区主催のグループホーム連絡会に参加して、近隣のグループホームの責任者の方々と話し合いを行い、泉区内のグループホームのサービスの質の向上に取り組んでいます。		他の行事と重なることが多く、なかなか参加できていないのが現状です。時間をつくり積極的に参加していきたいと思えます。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	介護実践者研修・管理者研修などに参加し知識を得ました。現段階ではいずみ館においては後見人制度が必要な方はいらっしゃいませんが、いつでも話し合えるよう家族の方ともコミュニケーションをとっています。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が加害者、利用者が加害者または被害者になることがないように細心の注意をはらい、防止に努めています。職員は先を見据えて行動し、利用者同士がトラブルにならないよう注意しています。		高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会がまだないので、研修や講習会等に参加し、視野を広げたいと考えています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時・解約時には必ず利用者や家族等に疑問があるかないかを尋ね、理解し納得していただけるまで説明するようにしています。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が職員や会社に対して発言できる場を設けていません。</p>		<p>利用者が職員・会社に対して発言できる場を設け、利用者の声を聞き運営に反映させていきたいです。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会に来ていただける家族の方が多いので、その都度必ず報告しています。</p>		<p>「お便り」を発行できてない月がほとんどなので、遅れないように毎月発行できるようにしたいです。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>「ご意見箱」の設置をし、不満や苦情がある場合には「苦情報告書」に必ず記入し、運営に反映させています。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>いっしょに運営推進会議を通して、職員の不満・意見等を話し合う機会を設け、より満足して働けるようにしています。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者や家族の状況の変化、緊急時など職員が必要な場合、残業や休日出勤として人員を確保し、柔軟に対応できるようにしています。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>			

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	養成講座や社内研修、また介護実践者研修や管理者研修など、内外を問わず職員のレベルアップする場を設けています。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	泉区運営推進会議やグループホーム連絡会に参加し、同業者と交流を深め、ネットワークを構築し、相互にサービスの質の向上を目指しています。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	毎月1回(20日)をリフレッシュの日とし、日々のストレスを解消する場を設けています。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は各館が行うミーティングに参加し、職員の個々の努力等を把握し、全スタッフが向上心を持って働けるよう運営者の思いを伝えています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接の時点で不安なこと、ずっと続けていきたいこと、今までの生活スタイル、心身状態などをよく聴き、利用者の気持ちをよく理解するよう努めています。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接時に利用者を交えて要望をじっくり聴き、どうしてほしいのかをしっかりと聴くよう努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時に本人・家族から要望を伺い、グループホームなのか、有料老人ホームなのかを考慮し、支援しています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	何度見学に来られてもいいので、場の雰囲気を知っていただくようにしています。見学に来られた際は、他入居者がどのようなリズムで生活しているかなどを伝えるようにしています。		茨城にある他館で、体験入居(入居希望者のみ)やショートステイが利用可能となっているので、3年という期日を過ぎたら体験入居等できるように検討したいです。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と常に笑いある雰囲気作りを心がけていますが、たまにケンカもします。また利用者は毎身体調や心情が違うので、学ぶことが多いです。お互い人として接しているので、支えあって生活しているといえます。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族に対しては利用者のために出来ることは、何でもしていただくようにしています。家族と一緒に相談・話し合いをしながら利用者を支えていくように心がけています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者と家族の意見を尊重しつつ、両者がいつまでもいい関係が保てるように、常に「報・連・相」は忘れないようにしています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が馴染みの人と連絡がとりたい場合はできるだけすぐに連絡をとるようにし、場所に関しては、そこまでの距離・金銭面・人員を考慮しながら支援しています。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	各利用者がどういった関わり合いがいいのかを過去の生活スタイルや性格などから考慮し、コミュニケーションやレクリエーション、日々の集団生活から支えあっていけるように支援しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている			
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている			
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「気づきメモ」として気づいたことを書き込む用紙を作り、スタッフ全員で共有しながら、その利用者が楽しく過ごせるように支援しています。		気づいていても「気づきメモ」に残さず、個人記録に残したり、口頭で申し送って終わってしまうため、見直しができないことがあります。これからはメモを忘れずに取り組んでいきたいです。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人が競馬場に行きたければ行くし、マクドナルドに行きたければ一緒に行きます。少人数なので、軽いフットワークを活かし、本人・家族の要望を柔軟に対応するようにしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域住民の方がボランティアに来ていただいたり、高校生がネイルアートに来てくれたり、利用者が好きなことや笑顔になれるようなことを支援しています。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	泉区運営推進会議で地域ケアマネジャーやグループホーム関係者といろいろな問題点について話し合ったりしていますが、他のサービスを利用するための話し合いや支援は行っていません。		利用者から訴えがあるようならネットワークを活用して本人に喜んでいただけるよう支援していきたいです。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは運営推進会議やレクリエーションで使わせていただいておりますが、ケアマネジメント等については協働できていません。		利用者の訴えがあるようならケアプランに反映して、長期的に支援しその際に地域包括支援センターが必要なら協働していきたいです。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診に来ていただいている主治医があり、24時間連携をとれる体制をとっています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	茨城に精神科で認知症に詳しい医者があり、気軽に相談できますが、いずみ館まで診察や治療をしに往診しません。		主治医に専門医を紹介していただき、診察や治療を受けられるようにします。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	非常勤ではありますが、週1回看護職員が出勤するので気軽に相談し、利用者の健康を管理しています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	スタッフは時間があるときに面会に行き、そのときに必ず看護師や担当医に様子を伺い、情報収集や相談をしています。退院前には必ず担当医とムンテラを行い、現状の把握に努めています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に看取りについて聞くようにしており、重度化した場合は本人や家族等、主治医と話し合いを行い方針を決めています。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	まだ重度な利用者はありませんが、状態に変化がみられた場合はすぐ主治医に連絡して指示を仰ぐようにしています。家族とも相談し、検討しています。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	診療情報提供書等の資料だけではなく、伝えたほうがよいことや聞いておきたいことは情報交換を行い、本人が安心・快適に過ごせるように支援しています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>人生の先輩として敬意を持ち、言葉遣い・会話の内容に気をつけ、傾聴を心がけています。家族のように親しみを込めて話すことが多いです。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>明るい雰囲気作りに努め、日常の声かけから本人の思いや希望を傾聴し、自己決定を支援しています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一日の流れとして基本的な時間は設定していますが、その日の気分や身体状況に合わせて本人の希望を大切にしています。(食事・入浴・散歩・レクリエーション等)</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>いっしょ館内に理容者があり、希望時に来館して理容しています。本人が美容院でと望む場合は家族等と費用について相談してから行くようにしています。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>好き嫌いを把握し、メニューに取り入れたり調理方法や彩、味付けを工夫しています。一緒に食事をし、準備や片付けも行っています。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>利用者の身体状況を考慮し支援しています。飲酒に関してはお誕生日会や行事のときにして楽しんでいただいています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者の排泄パターンを把握してさりげなく支援し、清潔を保っています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日声かけをし好きなときに入浴していただいています。入浴剤なども使用して楽しめるように工夫しています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の状況に合わせて寝具の清潔を保ち、お昼寝や安眠に努めています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯干しや食事の片付け、食材の買い物、遊び等、好きなことを一緒にやっています。		小さな花壇があるので、園芸や野菜作りをやってみたいと思います。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる利用者には本人に所持していただき、買い物にも同行していただいています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の気分に応じて散歩やお買い物に出かけています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年に1度、一泊旅行を実施しており、個別に家族との外出や外泊を支援しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している利用者や館よりいつでも家族や知人に気兼ねなく電話できるように配慮しています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	元気に明るくお迎えをし状況に合わせて一緒に食事をしていただき、居室やホールで自由に過ごしていただいています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はせず、本人の意思決定を尊重し、身体拘束のない生活づくりを支援しています。		介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為はすべての職員が理解しているわけではないので、全員が理解できるよう周知したいです。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各居室やユニット出入り口は施錠していません。玄関は夕方18時を過ぎたら防犯のために施錠します。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の所在や様子をさりげなく把握し、見守りを大切にしています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態に合わせて任せています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各利用者の身体状況、行動パターンを把握し事故防止に取り組んでいます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	怪我、体調不良、誤嚥等の応急手当、対処法を学び、緊急搬送も経験しており、これからも徹底していきます。		新しく入るスタッフにも指導し、全職員が対応できるようにします。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	泉区運営推進会議に参加し、話し合っ地域の方々と理解・協力を得られるようにしています。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	家族とリスクや希望について話し合いをし、プライバシーや尊厳を大切に生活していただけるよう話し合っています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の見守りの中から利用者の体調や様子を把握し変化や異変の発見に努めています。気付いた際には速やかな対応を心がけています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指導処方に基づき処方薬を理解し、確実な服薬、利用者の体調の変化に注意しています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表、水分摂取量表を活用し、食事の工夫や便秘薬の調節、散歩などで排便コントロールをしています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを実施し、清潔を保ち、週1回義歯の洗浄と消毒を行っています。		毎食後の口腔ケアとうがいの徹底をします。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月2回の定期往診の際、医師や栄養士より食事面・水分摂取量などの指示を受け実施しています。		体調不良時、食事がすすまない低栄養状態の利用者には高たんぱくゼリーを常備し摂取していただいています。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	月2回の定期往診の際、主治医よりその都度予防や対応策の指導を頂き、職員に伝達しています。社内研修、実践者研修など外部研修を活用し職員に資料として伝達しています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	消費期限を厳守し、使用に間があく食材に関しては冷凍保管で対応しています。野菜は新聞紙などで包み保護し定期的に冷蔵庫内を清掃しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	利用者と一緒にゴミ捨てや散歩の際には地域住民の方とコミュニケーションをとり、気軽に来館していただけるよう声かけを実施しています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は定期清掃を実施し清潔にしています。ホールは季節感を出せるよう飾りなどを取り付けたたり、利用者の写真スペースを設けています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール奥にはたたみ部屋を設置し、ゆっくり過ごして頂けるようコタツ、テレビ、書物などを置いています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	基本的にすべての利用者が以前から使用されている家具や 備品で意向に合わせて快適な生活をしていただけるようにし ています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	利用者の体調や状態、意向に合わせてこまめに調整してい ます。また、日中定期的に換気を実施しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	壁側には手摺りがつけられ、ホール内はテーブルと椅子とい たってシンプルな環境となっており、歩行される際の障害を なくす配慮をしています。また、広々とした空間も大切にしてい ます。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	利用者のその人らしさを大切に出来ることはやっていただ き、望まれる介助、支援をコミュニケーションや声かけにより 汲み取り支援しています。		トイレ扉に大きくトイレと色画用紙で書いて貼り付け、遠くか らでもわかるようにしています。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	施設の外回りは花壇があり、利用者とともに花や野菜を栽培 しています。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・利用者の趣味や意向に合わせた個別レク（競馬観戦、パチンコ、名所訪問など）などをおこなっています。また、年に一回、一泊旅行を実施しています